



滝野東小学校だより

令和元年 12月23日 文責 神田

ふるさとの良さを感じるとき ～4年生加東遺産めぐり～

12月4日(水)、4年生は、加東遺産めぐりに出かけました。加東遺産めぐりは、市内の4年生が社会科「郷土を開く」の学習の一環として、加東の遺産を巡ることで、その良さにふれて、ふるさとに愛着と誇りを持つことができるようにとの願いから始まった加東市の教育事業のひとつです。

まずは、鬼追い踊りで有名な「朝光寺」を訪れました。国宝に指定されている本堂に入り、住職の方からお話を聞かせていただきました。朝光寺では、毎年「鬼追い踊り」が行われ、大きな松明を持った鬼が勇壮な踊りを見せてくれます。その松明を実際に持ってみた子ども達は、その重さに驚いていました。



朝光寺 住職さんのお話

次は、西国三十三所観音巡礼 25 番札所「清水寺」を訪れました。清水寺は、1,800 年前、天竺の僧である法道が創建したとされ、推古天皇の時代 627 年に根本中堂を建立、さらに 725 年に聖武天皇が行基に命じて講堂を建立したと伝えられている由緒あるお寺です。訪れたときは、ちょうど紅葉が美しく、子どもたちは、紅葉に囲まれて友だちとお弁当を食べることが出来ました。

最後は、「アクア東条」を訪れました。加東市は、釣り針である播州針の産地として有名です。播州針は、1851 年に、下久米村の元庄屋であった小寺彦兵衛が、土佐で習得した技術を持ち帰り、周辺の若者に伝授して広まったと言われています。この技術は現在にも引き継がれ、播州針は、日本の釣針から世界の釣針へと発展し、今もなおその名を世界中に轟かせています。

4年生の子ども達は、どの見学地でも聞き取ったことを一生懸命メモする姿がありました。今回の加東遺産めぐりは、子ども達が加東市の素晴らしさをより身近に感じ、ふるさとを愛する気持ちを持つきっかけとなってくれたようです。見学でお世話になった皆様方、ありがとうございました。

朝のマラソン頑張っています～冬休みも継続した体力づくりを～

12月2日(月)の週は、インフルエンザが猛威を奮った1週間でした。多いときには80名を超える子どもが欠席しました。インフルエンザによる学年閉鎖・学級閉鎖は、学校全体の半数にものぼりました。しかし、翌週からは、欠席者がうんと減り、終息へと向かいました。今では、朝8時を過ぎた辺りから運動場に出て走る子ども達の元気な姿を見ることができます。マラソン開始の8時10分まで運動場をひたすら走る子ども達には、走る距離や目指すライバルなどの目標があります。



全校生 朝のマラソン

あるとき、3年生の男の子が校長室を訪ねてくれました。「校長先生、肩をたたかせて下さい。マラソンで150周を走ることができたので、そのごほうびです。」と。私の方こそ思いがけないごほうびをもらい、嬉しくなりました。「次は、200周だね。」と声をかけると、その子どもは大きく頷いて笑顔で教室へ戻って行きました。

朝のマラソンは、子どもたちが寒さに負けない体力をつける時間だけでなく、目標を持って頑張る心を育てる大切な時間になっています。朝のマラソンの先には、1月15日(水)の校内マラソン大会があります。この冬休み期間中にも、朝のマラソンで培った体力や頑張る心を大きく育ててくれることを期待しています。お子様と一緒に走って汗を流されるのもよし、毎日励ましの声かけをしていただくのもよし、お子様のやる気スイッチを上手に押してあげて下さい。よろしくお願いします。